

総務常任委員会

令和元年度幸手市一般会 計歳入歳出決算 (議案第49号)

問 法人市民税の増額理由は。

答 業績のよかった大きな会社が数社あり、主なものとして、機械製造の会社が、前年度比で2143万8千円の増額、また印刷関係の会社が、前年度比で1549万円の増額、さらに石油関係の会社が、前年度比で923万7千円の増額となっていることが要因である。

問 地方創生推進費、旧吉田中学校木造校舎再生検討事業補助金の内容と用途は。

答 現在、旧吉田中学校木造校舎は、郷土資料館の民具資料展示室として使用している。

この木造校舎について、今後のあり方などについて、主に3点の調査・研究を、日本工業大学に行っていたらいい。1点目は、木造校舎の希少性や価値、地域住

民にとつての愛着を把握するため
の調査。
2点目は、将来的に木造校舎を
再整備して活用する場合の、参考
事例の現地調査。

3点目は、木造校舎を再現する
取り組みとして、当時の生徒が使
用した机と椅子の復元制作。
となつており、これらの取り組
みを支援するため、補助金として
支出した。

令和2年度幸手市一般会 計補正予算(第6号) (議案第65号)

問 土木費国庫補助金の道路メン
テナンス事業費補助金の採択条件
の内容は。

答 当初予算では、古川橋の架け
替え事業と橋梁定期点検事業につ
いて、社会資本整備総合交付金を
活用する、ということと計上して
いたが、国の新たな補助金である、
道路メンテナンス事業費補助金が
新たに創設された。こちらの交付
率がよいことから、今回の補正で

古川橋架け替え事業、事業費84
00万円、交付率55%ということ
で交付額4620万円、同じく橋
梁定期点検事業、基本額の委託料
760万円、交付率55%というこ
とで418万円、合計5038万
円を計上した。

問 財政調整基金に3億円積立て
ているが、法的基準の不足額は、
今後、積立て可能であるのか。

答 決算余剰金の処分は、地方自
治法の第233条の2、各会計年
度において決算余剰金が生じたと
き、翌年度の歳入に編入しなけれ
ばならない。ただし、条例、また
は議会の議決により、余剰金の全
部または一部を翌年度に繰り越さ
ずに基金に編入することができる。
さらに地方財政法の第7条、地方
公共団体は、各会計年度において
歳入歳出の決算上余剰金を生じた
場合は、余剰金のうち2分1を下
らない額を翌々年度までに積立て、
または繰上償還しなければならな
いという規定がある。

今年の実質収支額、6億773
1万6千円の2分の1では、3億
3865万8千円となり、今回の
補正で計上した積立金3億円では
2分の1に至らない。残りの38

65万8千円を今年中に積みまけ
ればならないところだが、実質収
支額が毎年低くなっており、財政
状況が厳しいなかでのやりくりと
なるが、繰出金と繰入金で計上し
ていく。

問 資源物運搬・選別処理事業が
3か年、ごみ収集事業が5か年の
債務負担行為を設定されているが、
前回の債務負担行為と金額的な差
異は。

答 資源物運搬・選別処理事業の
前回の債務負担行為の額は、1億
876万4千円である。3年間で
限度額1億2900万円、これを
3年で割り、年間約4300万円
令和2年度の予算額が3399万
4千円なので、年間900万円程
度の増額となっている。また、ご
み収集事業の前回の債務負担行為
の額は、8億665万6千円であ
る。5年間で限度額が10億788
3万円、これを5年でわり、年間
2億1576万6千円である。令
和2年度の予算額が1億6192
万円なので、年間5384万6千
円の増額となっている。

文教厚生常任委員会

令和元年度幸手市一般会計歳入歳出決算の認定 (議案第49号)

問 協働事業推進協力報償金の内容は。

答 市との協働事業を推進する活動を行う104の行政区に対し、その世帯数に、1世帯当たり600円を乗じた額を協力報償金として支給している。市および関係機関の広報紙の配布のほか、クリーン作戦に参加する際や、地域のいろいろなイベント等に使っていただくために、報償金として支給している。

問 子どもの学習支援業務の内容は。

答 一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワークに委託しているウェルス幸手で教室の開催を行っており、毎週水曜日、午後5時半から午後7時半まで学習支援を行っている。また、夏休み、冬休み期間中は、午後1時から午後5時まで学習支援を行っている。

問 消防団運営交付金の配分は。

答 消防団運営交付金は、団本部に16万円、また、1分団当たり80万円、8分団あるので、合計で656万円交付している。

問 入学準備貸付金の内容は。

答 大学、専門学校入学者が、50万円掛ける4名で200万円、高等学校入学者が、25万円掛ける2名で、合わせて250万円。

令和元年度幸手市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定 (議案第50号)

問 国民健康保険料引き下げの可能性は。

答 毎年、県から提示される標準保険料率が、現状の当市の税率とは乖離があり県の方が高くなっている。税率を引き下げるのはなかなか難しい。

令和元年度幸手市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定 (議案第52号)

問 不納欠損の状況は。

答 昨年度の欠損額は、759万3600円で、実件数にして、208名分である。介護保険料の不納欠損は、2年間の時効がかり、滞納されている方に、納期限20日以内に督促状の発送からスタートをし、催告書の発送、電話催告等、また輪宅、直接、訪問などをして滞納の回収に当たっている。

幸手市国民健康保険税条例の一部を改正する条例 (議案第58号)

問 減免申請の要件は。

答 一つは、新型コロナウイルス感染症により世帯主が死亡し、または重篤な傷病を負った世帯の方。もう一つは、新型コロナウイルス感染症の影響により世帯主の収入(事業収入、不動産収入、山林収入、給料収入のいずれか)が、減少が見込まれる世帯の方。

幸手市介護保険条例の一部を改正する条例 (議案第59号)

この条例改正は、幸手市国民健康保険税条例の一部を改正する条例と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響など、災害その他やむを得ない事情がある場合の規定である。また、補てん財源は、国が10分の10補てんする。

令和2年度幸手市一般会計補正予算(第6号) (議案第65号)

問 病児保育事業負担金の内容は。

答 病児保育事業は杉戸町との広域利用事業として実施している。医療機関との契約は杉戸町が実施し、本市は杉戸町に負担金として支払いをしている。

その負担金の金額は、医療機関との委託契約金額から国・県から交付される補助金を差し引いた額の2分の1に、事務費をプラスした額。国庫補助金等は、利用人数によって変動する仕組みになっており、本年度は新型コロナウイルスの影響もあり実績人数の大幅な減少が見込まれ、国庫補助金等が減額となる見込みである。その結果、市の負担額の増額計上をした。

問 学校管理費の緊急対応工事の内容は。

答 小学校で今後発生し得るであろう修繕に対応するため、当初予算500万円を緊急工事として計上している。既に8月で266万1000円を執行してお令和2年度幸手市国民健康保険特別会計補正予算決算では、878万7000円かかっているため、今回250万円を計上した。

令和2年度幸手市一般会計補正予算(第2号) (議案第66号)

問 国民健康保険運営協議会委員の報酬の増額理由。

答 増額の理由の一つは、市の国民健康保険運営協議会の開催日数が例年に比べて増加する見込みである。もう一つは、当市の国民健康保険運営協議会の会長が埼玉県国民健康保険運営協議会の理事に就任したため、理事会の参加に対する報酬を計上した。

建設経済常任委員会

令和元年度幸手市一般会歳入歳出決算 (議案第49号)

問 市民農園管理業務委託料で管理する区画数、市内の休耕地を市民農園として活用する考えは。

答 現在78区画を管理している。休耕地については、担い手を探して耕作していただく方向で動いており、休耕地の市民農園としての活用は現段階では考えていない。

問 全国さくらサミット運営業務委託の成果と評価は。

答 全国的に記念イベントに行われることが多く、本市では幸手駅橋上駅舎東西自由通路完成記念と併せて花火を企画。幸手市をPRができたものと考えている。



問 ハッピーハンド事業は決算額15万円で十分な活動ができていますか。

答 補助金は市民まつりでの投票等の経費で、幸手市青年会議所によると、手形はアポイントがとれないなど2015年以降、頂けていない状況が続いている。

問 準用河川大中落・中落掘削工事の効果・検証は。

答 大中落は吸引工法で、中落は掘削工法で浚渫を実施した。2018年9月と2020年6月の降雨で検証を行い、施工後の2020年6月は2018年9月の降雨の14倍降ったが、水位の上昇がなかったことから効果があったと考えている。

問 雨水排水ポンプ修繕工事の内容は。

答 中川にある千塚ポンプ場の排水ポンプ羽根車を更新した。部品のみ交換も検討したが、値段が新品と差異がなく、本体が平成13年設置であることから全部交換を行った。異物混入防止策については既存スクリーンの目の大きさを調整した場合の効果を検査し、対応が可能であれば検討する。

令和元年度幸手市幸手駅西口土地区画整理事業特別会計歳入歳出決算 (議案第54号)

問 物件移転補償費の件数は。

答 建物移転は計画上262戸に對して完了は44戸である。また、262戸の補償額総額は4億1132万3千円を見込んでいる。

令和元年度幸手市水道事業会計決算 (議案第55号)

問 減価償却費の今後の推移は。

答 令和元年度は平成30年度に比べて1平方メートルあたり約4円増加した。主な理由は平成29・30年度に更新した第2浄水場の操作盤関係工事の減価償却費が増加したことにある。

減価償却が終わると耐用年数も近くなるので、その時点の施設更新も考えられるため、今後は給水供給量に応じた施設のダウンサイジングを考えながら減価償却費の減少を図っていききたい。

幸手市都市計画マスタープランの一部改定 (議案第61号)

問 作成を1年先送りする理由は。

答 新型コロナウイルス感染症の影響で、予定していた地区別懇談会が開催できなかった。今後は、感染症対策をとりながら懇談会を実施してまいりたい。

令和2年度幸手市一般会計補正予算 (第6号) (議案第65号)

問 市民まつり業務委託料の減額理由と中止による経済損失、代替事業の考えは。

答 実行委員会に諮り中止の決定をした。6月から「ハッピーエールプロジェクト事業」に取り組んでいる。また、コロナ対策をした事業者への補助も実施。現在、商工会と幸手駅自由通路への出店など、いろいろなイベント等も検討中で、経済損失も考慮し進めたい。

問 香日向排水機場エンジン熱交換器取換工事の内容、予算見積もり方法は。

答 冷却装置を全部新品に取り換える想定での見積もりだが、一度解体した後、使える部品は使い、工事工程を調整しながら、可能であれば、工事費の縮減を図ってきたい。